



白河ブランド
認証第31号

白河の関 老久保そば



代表 遠藤泰則さん

より多くの方に白河そばのおいしさを知っていただくため、地元産にこだわった乾麺を作りました。

そば屋が作った乾麺をぜひ味わってみてください。

☎本庁舎農政課 内2225

(有)新駒本店

白河が誇る優れた産品を紹介！

地産地消にこだわり、表郷産のそば粉と東野出島産の小麦粉を使用した100%白河産のそば乾麺です。
長年、そば屋を営んできた経験を生かし、白河そばをブランドとして広めたいという思いを込めて作りました。
原料は、6次化の取り組みを通じて知り合った地元生産農家から仕入れています。自社の石臼でひいたそば粉は、そばの香りと風味が生きています。濃い色味が特徴の東野出島産の小麦粉との相性も抜群です。
従来の乾麺よりそば粉を多く使用しているため、ゆで上がり早く、手打ちそばのよくな味わいが楽しめます。水に浸してからゆで上げるのがおすすめです。

シリーズで学ぶ 白河歴史人物伝

Vol. 5

白河生まれの姫君

秦姫

(1795～1823)

《定信の娘たち》

松平定信は、6人の養子を含む、15人の子どもに恵まれました。うち11人が女子で、この娘たちは各大名家に嫁ぎました。例えば定信の妻の実家である大洲藩(愛媛県)や、長岡藩・村上藩(新潟県)、高崎藩(群馬県)、諏訪藩(長野県)などです。

《6女・秦姫》

その一人、秦姫は寛政7年(1795)3月17日に生まれました。定信の子でただ一人の白河生まれです。名前は、はじめ睦、次に晴、そして秦を名乗りました。

5歳まで白河で暮らした秦はその後江戸に出て、文化5年(1808)12月26日、平戸藩(長崎県)の藩主、4歳年上の松浦熙と婚姻しました。この記念の日は、それから松浦家で年忘れを兼ねた祝いの日となりました。

このとき秦姫が持参した婚礼道具やひな人形が現在も伝えられています。婚礼道具は

黒漆塗で蒔絵が施され、松平家の家紋である梅鉢紋が入っています。ひな人形は当時流行した極小の「芥子雛」と称される精巧なもので、当時の技術の高さがうかがえます。
文政6年(1823)、秦姫は29歳の若さで亡くなりましたが、夫の熙はその後も記念日を祝い、妻を偲びました。このことが秦姫の遺品が大切に伝わった大きな理由の一つと考えられます。

このたび、白河で初めてこれら貴重な品々を展示します。白河ゆかりの姫君の、華麗な婚礼道具等をぜひご覧ください。(詳細は10ページ)



髻台

整髪・眉作・お歯黒などの化粧道具入れです。



鏡建・姿見・鏡箱

姿見の鏡などの一式です。

(共に松浦史料博物館所蔵)

☎文化財課 ☎272310